Green Spirits

思いやりと主体性の育みを

渡邉 寛治 外国語学部教授／CLEC所長

近年、若者の対人コミュニケーション力（資質・能力）不足や低下が指摘されている。大学等の高等教育機関は、企業側から大学卒業までにもっと人を思いやる心を持った対人コミュニケーション力や誰にも分かり易く説明できる論理的コミュニケーション力を養うように要請されている。企業の多くは、コミュニケーション力のある人材を必要としているからである。

確かに、現代の若者は、他人への思いやりの欠如や人前で分かりやすくプレゼンテーションをしたり、論理的に対話したり、双方が納得できるような質疑応答をすることを苦手としている。昨今は、挨拶すらきちんと出来ない人がいる。では、そのようなコミュニケーション力は、いつ頃からどのように指導すれば育まれるのであろうか。

平成23年度より公立小学校の第5・6学年で始った「外国語（英語）活動」（年間70時間）では、既述の「コミュニケーション力（資質・能力）」の素地を育むことを目的にALT（外国語指導助手）とのコミュニケーション体験を行っている。具体的には、「他人を思いやる心」と「主体性（アイデンティティー）」の素地を養うことを目標に行っている。これらは、通常の対人コミュニケーションの必須事項であると共に、国際社会で求められている資質・能力だからである。本学の「共生」と「自立」の教育理念にも繋がっている。

小学校で英語を教えると思われているようであるが、大きな誤解である。国際共通語の英語を用いて、感謝の気持ちを言葉ではっきり伝えたり、人に物事を頼む時には、必ず「～プリーズ」のように、相手に対して敬意をはらうコミュニケーション体験をする。また、「将来の夢」活動では、自分のなりたい職業を決め、その理由もつけて伝える（思考力と判断力の育成）。

このようなコミュニケーション・ウェイは、国際的なコミュニケーションの場で求められる「自己決定・行動力」及び「主体性」を育むきっかけにもなる。本学の「子ども英語教育センター（CLEC）」でも、幼児・児童一人ひとりの「自律」と「主体性」の育成を目標にコミュニケーション重視の英語教育を行っている。